



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

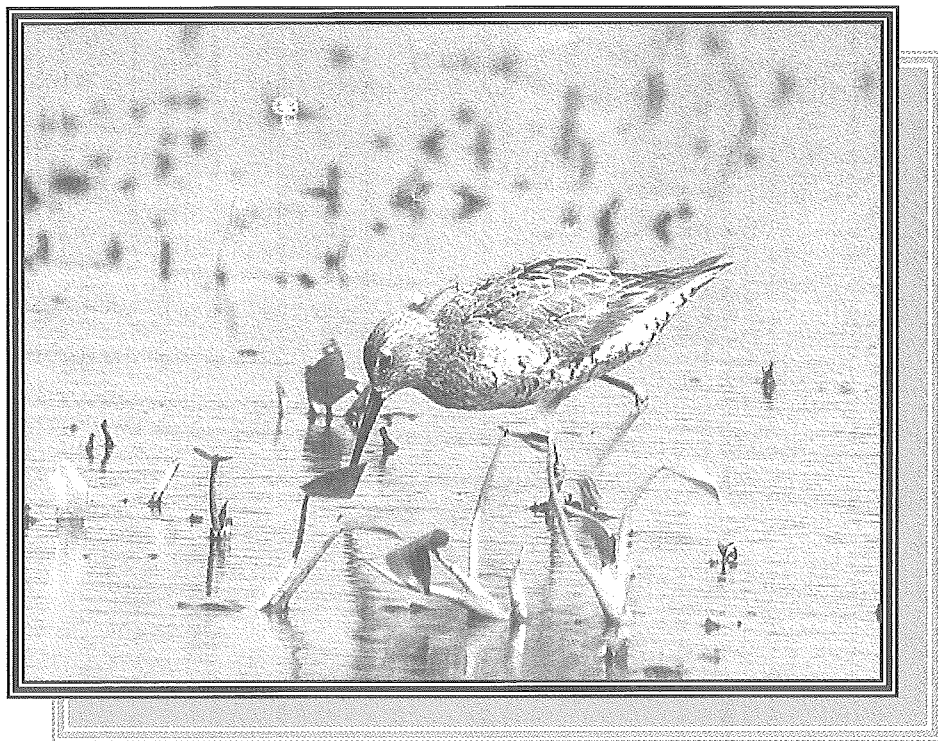
しらこぼと

2004.10

No.246

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



デジタル画像は超面白い

～撮影後の、「楽しみ方活用編」公開～

町田好一郎(本庄市)

どアップビデオやデジスコで撮影した後、皆さんはどんな方法で楽しんでいますか？ いろんなレタッチソフトで加工して紙焼きしたり、CD-Rに保存したり、アルバムを作ったり、Eメールに添付したり、はがきを作ったりなどなど。左程パソコンに詳しくない中高年おじさんのやさしい楽しみ方を、恥ずかしながら、そっと公開します。

お気に入りのレタッチソフト デジカメ Ninja
(株式会社アイフォー)
画像印刷加工ソフト マイクロソフトはがきスタジオ
マイクロソフト・パブリッシャー
撮影機材 ソニーTRV-900(3 CCDビデオカメラ)
ニコンD-100(デジタルカメラ)
使用パソコン ソニーPCG-GR9E ノート型 XP
仕様

「デジカメ Ninja」でラボ作業

任意のフォルダを開き加工する画像を取り出します。

最初はトリミングですね！ 撮影するときはどうしても余分なものが写りこんだり、構図もアバウトです。

自分なりの感性の構図が取れたら、次は画像にシャープさを加えます。多少のぼけはここで調整できるのがデジタル画像の魅力です。シャープも「強、中、弱」と調整可能ですが、中までがベター。「強」にすると画像のエッジが荒れてしまいます。

少し薄暗い画面でしたら逆光補正も可能です。

次は画像サイズの変更です。ニコン D-100で撮影した画像は1.29MB。3000×2000の大きさでEメール添付には大きすぎ、受信者からは「迷惑メール」になります。そこで500×500、130KBくらいに変更してみますと添付にピットコンのサイズになります。

この画像に元画像とは別の名前を付けて保存してやれば、元画像を残したまま新サイズの画像を保存できますね！

他にモノクロやセピア色に変換や画像の回転等いろんな作業が可能です。

レタッチソフトは易しいものから難しいものまで千差万別です。ですから友人知人が使っていて信頼できるものを選択すれば良いではありませんか！

「MS パブリッシャー」で画面を作る

例えばA4の用紙に画像と文章を任意に入れるとなると「ワード」では少し無理が生じます。そんなときのお助けソフトがMS(マイクロソフト)パブリッシャーです。何の苦もなく、画像と文章が任意の場所に任意の大きさとス～っと入ります。探鳥会の記録や、会報、報告書を作成する時に役立つソフトで、便利に使っています。

先ずパブリッシャーを立ち上げ、白紙の場面を選択し「挿入」→「図」→「ファイル」で任意の画像を選び、「挿入」をクリックするだけです。後は任意の場所にドラッグ、ドロップし、縦書きか横書きかの選定作文し、任意な箇所にもドロップで完了です。

「ワード」で配置に苦勞していたのが嘘みたいで楽しく版が出来ます。

右ページがその作例のひとつ、5月の戸隠探鳥会の様子です。

「MSはがきスタジオ」ではがきを作る

はがきの任意箇所にも画像と文章を入れるときに用いるソフトです。このソフトは東北地方の中高年ボランティアが立ち上げたソフトで、おじさんおばさんが苦勞せずに作業できるように易しく指導してくれ、助かります。

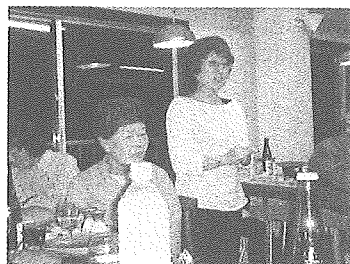
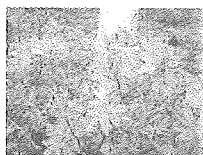
取り扱い説明書も大きな字で判りやすく、中高年に易しいソフトだと愛用しています。

画像の挿入は簡単で、はがきスタジオを立ち上げ、「ナビ起動」をクリック、白紙を選び、「挿入」をクリック、保存してあるフォルダを開き画像を選んで「挿入」、この作業を何度

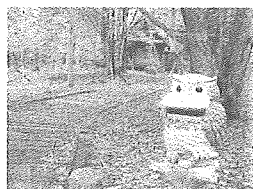
か繰り返すことにより任意の場所に任意の大きさとで画像を配置することが可能です。

文章も縦、横を選び任意の場所に好みの大きさや色のフォントで挿入出来ます。

簡単、超簡単ですよ！



戸隠 鳥会





野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●ハシボソミズナギドリ

分類 ミズナギドリ目ミズナギドリ科ハイイロミズナギドリ属

英名 Short-tailed Shearwater

または, Slender-billed Shearwater

学名 *Puffinus tenuirostris*

2004年9月1日付け読売新聞埼玉版と埼玉新聞に、「8月31日午前5時ころ、越谷市内の民家の庭にハシボソミズナギドリがいるのが発見された。市職員に保護され、市内の動物病院で診察したところ外傷はなく、元気を回復した午後2時、元荒川に放鳥された。台風16号で流され迷行したものと思われる」との記事が、写真入りで掲載されました。

当支部研究部が本誌1987年1月号(第32号)に発表した埼玉県産鳥類リストに、本種

は「日付は確認できず」として記録されています。その時点ですでに今回同様の保護の記録が知られているが、詳しい日付や場所は確認できなかったものです。今回の例も含めて、県内では過去数回(おそらく10例には満たない)程度、同様例があるものと思われます。

全長35~43cm、翼開長約100cm。全身褐色、下面はやや淡く、名前の通りくちばしは細く、尾は短い鳥です。

9~5月にオーストラリア南東部の海岸やタスマニア島などで繁殖し、その後北太平洋を西から北、東へと大きく時計回りに回遊し、次の繁殖時期には繁殖地に戻ります。日本近海には回遊の途中、5月ごろから本州沖に出現し、しだいに北へ移動します。

南半球で繁殖して日本近海に定期的に現れるミズナギドリ類3種(本種とアカアシミズナギドリ、ハイイロミズナギドリ)の内、最も個体数が多いのが本種です。悪天候後に、落鳥した若鳥が、多数海岸に打ち上げられることもあります。

野鳥と最接近!

海老原美夫(さいたま市)

写真の右手前は私の左足、中央から左下に首を伸ばしているのは、ニュージーランドクイナ。ニュージーランド固有の数少ない鳥です。私の足元を通り過ぎていくのを、手持ちビデオカメラで見下ろしながら撮影した一場面です。大型望遠レンズしか用意していなかったカメラマンは、「近すぎるよ!」と、必死に後ずさっていました。

場所はニュージーランドの南島から南に小型機で飛んだスチュアート島、そこから更に小型ボートに乗り換えてたどり着いたアルバ島の山道。今年1月のことでした。

ニュージーランドでは数少ない原始からの自然が残っているアルバ島は、今は大切に保護されています。かつては食料として捕獲されていたニュージーランドクイナも、その保護の歴史の中で、人に対する警戒心をすっかりなくしてしまったわけです。

人と野鳥との距離は、その地域の歴史と深いかわりがあります。自然保護活動の先進地域と思われ



るヨーロッパでも、狩猟がスポーツとして盛んなところでは、野鳥は人から遠く逃げます。一方、飾りのためにフウチョウ類を捕獲し続けたパプアニューギニアでも、ある特定の保護地域では、かなり近くで見ることが出来ます。カナダでは、人の手から餌をとって行く小鳥たちがいます。

日本ではどうでしょう。私がバードウォッチングを始めた30年ほど前に比べると、大分人と野鳥の距離が近くなったように感じています。でも、まだこれほどまでには!

ノゴマ 5年連続

新井勇吉 (川口市)

さいたま市の見沼田んぼ、下山口新田付近が私のフィールドです。

9月から10月、11月にかけての季節に観察できる鳥は、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ノビタキ、ノゴマ、ツリスガラ、アリスイ、ベニマシコ、クイナなどです。

ノゴマは5年も見えています。今年も来てくれば、6年目になります。楽しみです。



ノゴマ



カワセミ



ノビタキ

原稿・写真・イラストなど、いつも募集中!!

表紙写真・カット写真

珍鳥である必要はありません。ごく身近な鳥でいいのです。季節に合った作品をお待ちしています。表紙写真として応募される時は、40字×5行程度のコメントも添えてください。表紙写真として応募いただいても、カットとして使わせていただくこともあります。おゆるしてください。

カットとしては、鳥の写真だけではなく、風景、虫・花などの自然、探鳥会の写真なども歓迎です。

特集記事

いつも歩いているフィールドを紹介したい、探鳥の旅での体験を伝えたい、野鳥観察の上でのひと工夫を教えたいなど、いろいろあると思います。書き溜めたフィールドノートを整理して活字として残しておけば、みんなにとって貴重な資料として残ります。400字詰

め原稿用紙6枚程度にまとめ、写真・地図・表などを添えてお送りください。

採否の判断は編集部にお任せしますが、お送りいただいた原稿に基づいて、相談させていただくこともあります。

4～5ページ用の短い原稿

テーマに限定はありません。ちょっと思ったことを、ちょこっと書いてお送りください。ここでは、400字詰め原稿用紙1～2枚程度が、使いやすい分量です。

イラスト

前月号4ページのイラスト、素敵だったでしょう。行事案内欄のイラストは富士鷹なすびさんのイラスト集から多く使っていますが、自分でも描けるぞ!という方は多いと思います。

野鳥情報

これについては、前月号6ページをご覧ください。

編集会議は原則毎月第一土曜日です。

キタミソウに会いに行こう

山部 直喜 (三郷市)

毎年、10月中旬以降になると、どこかの新聞の埼玉版、または埼玉東部版にキタミソウの花の咲いたことが決まったように紹介される。キタミソウはゴマノハグサ科キタミソウ属の植物で、埼玉レッドデータ絶滅危惧 IA 類である。

そんな珍しい植物を簡単に見ることができる場所がある。東武伊勢崎線越谷駅東口を出てまっすぐに約500メートル行った所に平和橋がある。そこからしらこぼと橋までの葛西用水右岸（上流を背にして右の岸）の湿地帯だ（写真1、写真2）。

キタミソウの説明看板には、

〔キタミソウは、北海道の北見地方で発見されたことに名前の由来があるといわれています。越谷では、昭和25年に植物学者大井次三郎氏により元荒川にて発見されました。その後、絶滅したと思われていましたが、昭和53年に葛西用水瓦曾根溜井でト沢美久氏により再発見され現在に至っています。〕



写真1



写真2

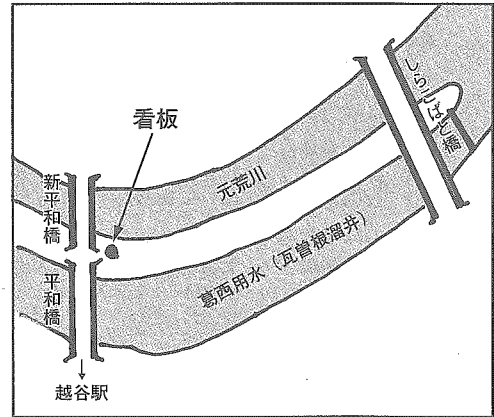


写真3

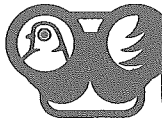
全国的には越谷市周辺と熊本県熊本市の江津湖のほか数カ所で確認されています。

花は用水の落ちる9～11月と3～4月の年2回、直径2mmほどの白い可憐な花を咲かせます。〕

とある。

越谷に住んでいた頃は、毎年のようにその花を見に行っていたのだが、初めての時は結局わからずじまいだった。直径2mmの花など、小さすぎて立って探せるものではなかったのだ。かがみこんで写真3のようにルーペを使った方がよい。葉がスプーンのような形をしているので、葉の形から探した方が早く見つかる。

越谷に行ったらキタミソウに会いに行こう。



野鳥情報

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇8月1日早朝、綾瀬川沿いに歩いている時、突然、脇の葎の中から白い鳥が飛び出しました。白鷺ではなく、頭が赤いのが見えました。飛翔した姿が白くて、美しい鳥です。追いかけてきましたが、その日は春光園の裏の木にとまり、見失いました。“何かしらサギ” 夢か幻かという感じでした。インターネットや図鑑で多分アカガシラサギと確認しました。8月5日早朝、また同じところから飛び出しました。運良く、小さくても証拠写真を撮ることができました。そして、何度か飛翔姿を見せてくれ、また同じ木の上で見失いました。8月7日、フィールドで度々出会う仲間3人で確認。飛び去っては、行く先で待っていてくれるような状態でした。この時点では、綾瀬川中心にいたようですが、綾瀬川は土手の草が刈られ隠れ場がなくなったので、行かなくなったのではないのでしょうか。県南卸売団地付近の今の畦ではゴイサギなどと一緒の木にとまっていることがよくあります。毎朝そこを散歩する方が“変なゴイサギがいる” と言っていたとか。下に降りて、採餌していることもあり、葎原の中にいるのか見えないことも多いです。飛翔はたまに見せてくれます。8月22日、夏羽が抜けて冬羽になりつつあります(千葉博子)。

さいたま市緑区蓮見新田 ◇8月24日、土手の上でコムクドリ10羽。8月30日、大牧小学校近くの見沼代用水西縁の桜の木の上でツツドリ1羽。その下の草地でホオジロ、モズ。その向うの葎の上でヨシゴイ。その



アカガシラサギ (千葉博子)

周りでセッカ、オオヨシキリが鳴いていた。下山口新田と川口市行衛の土手の上のクヌギの木の上でオオタカ1羽。遠くの木の上でコムクドリ6羽、ツツドリ1羽(新井勇吉)。

庄和町 ◇8月15日午後3時40分頃、富田小学校北側の休耕田で走行中の車の窓から白いサギの群れ15羽位を確認。頭がオレンジのアマサギ3羽とダイサギ、コサギが観察できた。嘴が黄色いのがダイサギ、嘴が黒いのは、コサギだと思うが、チュウサギも混じっていたと思う。望遠鏡を持って行かなかったのが残念(小菅靖)。

蓮田市黒浜 ◇9月4日午前7時頃、上沼でダイサギ1羽、アオサギ1羽、カルガモ約30羽、カイツブリ9羽。ゴイサギ幼鳥1羽上空通過。北西側の葎原がスズメの畦になっているようで多数のスズメが騒いでいた。朝露の残る農道でキジ♀3羽が採餌していた(藤原寛治)。

鴻巣市人形 ◇9月1日午後4時30分頃、自宅上空をアオサギ1羽通過。自宅の庭から見たのは初めて(内藤義雄)。

表紙の写真

アシナガシギ (チドリ目シギ科アシナガシギ属)

アメリカ大陸を南北に移動する鳥で、日本への飛来はまれ。鳥学会の鳥類目録改訂第6版によれば、1977年7月愛知県、1983年9月小笠原諸島南島、1987年8月東京都、1993年7~8月北海道の4例のみ。今回は2004年8月19日(木)に茨城県茨城町駒場で、エリマキシギ、コアオアシギなどの群れの中に見えるのが発見され、その付近に25日(水)夕方まで、1週間滞在しました。 写真:明日香治彦(茨城県龍ヶ崎市) 解説:編集部



行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月3日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：空にサバ雲、食卓に秋サバ。古代サクソン人は十月をワイン・マンスと呼んだという。実りの秋、若鳥にとっては、親離れをする試練の時季に当たります。去来する鳥たちのリポーター、それはあなたです。秋の植物も楽しめます。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月3日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園行き8：31発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、吉岡(洋)、若林、新井(勇)、赤堀

見どころ：フィールドを歩くには絶好の季節になりました。渡りの季節、鳥たちの移動が始まっています。心ときめく出

会いを期待して……………。

注意：調節池工事のため、コースの変更があります。

さいたま市・秋ヶ瀬大久保農耕地探鳥会

期日：10月3日（日）

集合：午前8時、JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地(やつしまニュータウン)へ。

担当：福井、楠見、小林、海老原、倉林、百瀬、森(秀)、渡辺(嘉)

見どころ：フィールドの極秘情報によるこの日のサギ出現予想は、◎は4種、○で5種、▲が6種で確定です。7種は出ません。出現種名は当日発表。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月10日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：榎本(秀)、和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田、栗原、飛田、大澤、新井(巖)

見どころ：冬鳥渡来の便りが気になる季節。ツグミやジョウビタキの初認を期待して、明戸堰まで歩きます。あなたの小さい秋を見つけてください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月16日（土）午後3～4時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月17日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、森（力）、小菅、赤堀、新部

見どころ：思い出せば暑い夏でした。みんな頑張ったごほうびに、今年の秋はいい鳥がやってくるでしょう。芝川の下流から堤防の工事が進んでいます。どんな影響があるのか少し心配しています。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月17日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7：11→春日部7：25→栗橋7：54→柳生8：04着。またはJR宇都宮線大宮7：08→栗橋7：43着にて、東武日光線乗り換え。

解散：午後12時ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：橋口、玉井、内田、田邊、四分一、中里、伊藤（隆）

見どころ：谷中湖にカモが到着します。今年の夏は酷暑だったので、今シーズンの冬は厳しい寒さが予想され、冬鳥には期待がかかります。コースは谷中湖を回り、谷中村史跡の林で、帰る夏鳥、北からの冬鳥を探しましょう。季節も最高、昼食持参でお出かけください。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月23日（土）～24日（日）

定員に達したので締め切りました。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月24日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8：52発にて、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、栗原

見どころ：この時季の探鳥会で、一番の話題の鳥といったら、ジョウビタキでしょうね。今年もきつといつものところに来ていますよ。秋風とともに古墳の池にもカモの第一陣がきています。高い空に、赤い柿がよく似合います。ひと時を楽しく過ごしましょう。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月31日（日）

集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。

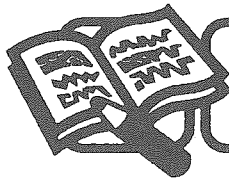
交通：JR埼京線大宮8：36→川越にて8：57発に乗り継ぎ、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、山本（真）、中村（祐）、池永、山本（義）、山田（義）

見どころ：野山も彩る頃です。鳥たちも山から里に、北国から南に移動してきます。久しぶりにあの鳥、この鳥と出会いがあるとおもいます。お目当ては、ジョウビタキ、それともアオジでしょうか。地元のカワセミも待っていますよ。



ジョウビタキ（編集部）



行事報告

1月18日(日) 松伏町 緑の丘公園

参加: 16名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ タシギ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ セッカ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 緑の丘公園は工事中にもかかわらず、カモ類の到来は定着したようだ。池の深さに変化があるので、ミコアイサも来てくれた。周辺の屋敷林には冬の小鳥のほかシラコバトも見られ、これからの公園の変化が楽しみである。(橋口長和)

2月11日(水、休) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 63名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ ハイイロチュウヒ チュウヒ チョウゲンボウ キジ タゲリ ハマシギ セグロカモメ シラコバト キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジューカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (52種) 谷中湖の干し上げで水面が下がり、カモ類全体の数が非常に少なく、潜水ガモの姿もない。真冬恒例の鷹見台遠征では猛禽が数多く出現し、チュウヒはゆったりと茅原の上空を遊弋し、遠くにハイイロチュウヒの姿も見えた。参加者の数(目?)が多いと誰かが何かを見つけ、観察種数は50種を超えてしまった。(橋口長和)

2月15日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 32名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジューカラ メジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (36種) 長かった堤防補強工事が終わり、復旧した狭山湖での久しぶりの探鳥会。玉湖神社周辺でルリビタキ、アオジ、シメ等を観察した後、歩きやすくなった狭山湖堤防に沿って、冬の水鳥をじっくり観察した。定番のカンムリカイツブリの群れは、望遠鏡がないと辛い距離だったが、群れの中に混じるハジロカイツブリもはっきり確認できた。堤防の北詰めでは、潜水を繰り返すホオジロガモ♀を追って、「出た!」「潜った!」とあちこちで歓声が上がった。カモ類は、種類はそこそこだったが、全体に数が減っているのが気になった。今度の冬はどうなるだろう。(石光章)

4月4日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

雨のため中止。

4月4日(日) 北本市 石戸宿

雨のため中止。

4月4日(日) さいたま市 民家園周辺

雨のため中止。

4月4日(日) 所沢市 狭山湖

雨のため中止。

5月8日(土)~9日(日) 長野県 白馬山麓

参加: 16名 天気: 晴時々曇

カイツブリ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ キジバト ツツドリ フクロウ アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグイス メボソムシクイ センダイムシクイ キビタ

キ オオドリ コサメビタキ エナガ コガラ
ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ
メジロ ホオジロ ノジコ アオジ アトリ カ
ワラヒワ イカル シメ ニュウナイスズメ ス
ズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (51種) 白馬でも年々観察できる鳥の
種類と数が減少してきているようだ。また、例年
よりも季節の推移が早いのを山野草や樹木の観察
で実感した。それでもフクロウ、サンショウクイ、
コルリ、クロツグミ、キビタキ、オオドリといっ
た常連の鳥やサクラスミレやフモトスミレなど10
種類のスミレを観察したし、ギフチョウとヒメギ
フチョウにも会えた。今年も白馬の大自然をまる
ごとウォッチングできて良かったと思う。

(小池一男)

6月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 45名 天気: 晴後雨

カイツブリ アオサギ キジバト カッコウ カ
ワセミ コゲラ ツバメ ウグイス オオヨシキ
リ セッカ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (19種) 学習センター
近くの木にコゲラの幼鳥が長い間止まっていて、
赤い斑紋も観察できた。カワセミが3度も姿を見
せてくれて、皆大喜びだった。雨が降り出したの
で、早めに切り上げたが、お目当てのヒクイナや、
カッコウ以外のホトトギス類に会えなかったのが
心残りだった。

(岡安征也)

7月11日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 47名 天気: 曇

カイツブリ コサギ カルガモ キジバト ホト
トギス コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス (18種) 朝方雨がパラッと降り、
今日は大丈夫かなと思いつつ出発。まず西田沼
でカイツブリ、カルガモを見る。鳥が少ない。オ
オムラサキも出が悪かったが、気温が上がってき
てようやく見られた。鳥合わせを待っていたよう
にホトトギスが鳴いてくれた。

(佐久間博文)

7月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14名

新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲
四郎、佐久間博文、島田沙織里、島田貴子、原田
譲、藤掛保司、藤田敏恵、松村禎夫、水谷真人、
百瀬修

7月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 71名 天気: 快晴

カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ
ゴジュケイ キジ コチドリ キジバト ヒバリ
ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキ
リ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (23種) 「暑い日が続いて、探鳥会
に出るには少し厳しいな。三室の探鳥会では珍し
い鳥が出ないし。」そんな7月の探鳥会だが、三室
には71名の老若男女の善人が集合。森の中や公園
の青葉の下で休憩しておしゃべりして、代用水の
流れに沿って桜並木の青葉の小道を歩く。一瞬涼
しい風が吹いて、気持ちが元気になった。やっぱ
り三室に来て良かった。

(楠見邦博)

7月25日(日) 狭山市 入間川

参加: 22名 天気: 晴

カイツブリ カルガモ コチドリ イカルチドリ
イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッ
カ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズ
メ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (21種) 今回の見どころは、今年「入間
川デビュー」した鳥たち。スタート地点でヒヨドリ
、河原ではカイツブリ、ハシボソガラスの幼鳥
が見られた。暑くて鳥の少ない平地の夏も、目先
を変えることで楽しめた。

(長谷部謙二)



ツミ (新井勇吉)

連絡帳

●「同封発送」方法の変更を検討

『野鳥』と『しらこぼと』の同封発送について、現在は三種郵便で発送していますが、冊子小包で発送し、いっそう経費削減を図ることが、本部から提案されました。

それによれば、当支部で年間 11 万円程度、本部で年間 17 万円程度の削減が見込まれるのですが、問題点は、発送人の名前が「(財)日本野鳥の会」ではなく、会が発送を委託している業者「(株)メール」になることと、そのことで、会員の個人情報の取り扱いについて心配されるかもしれないという点です。

そこで、「これは(財)日本野鳥の会が(株)メールに委託して発送しているものであり、同社は個人情報保護に関する事業者認定(プライバシーマーク)を取得しています」と封筒に記載し、会員のご理解をお願いすることなどを考えています。

支部役員会では基本的に提案を受け入れることにして、来年 4 月ごろからの実施を目指します。

なお、『しらこぼと』だけを受け取っている会員には、従来通り三種郵便でお送りする予定です。

●鳥獣保護区についての意見書と公聴会

埼玉県みどり自然課から、立正大学・文殊寺鳥獣保護区(熊谷市)と大吉鳥獣保護区(越谷市)の新設、荒川南部鳥獣保護区(さいたま市)の拡大に関する意見を求められ、賛成の意見書を提出しました。

8 月 27 日(金) 県浦和地方庁舎と県越谷地方庁舎、8 月 30 日(月) 熊谷会館で開催された公聴会には、藤掛保司支部長が出席しました。

●普及活動

8 月 26 日(木) 比企郡小川町の県立小川げんきプラザとその周辺で、県教育委員会と同プラザ主催のスーパーサマースクール「バードウォッチング」が開催され、小中学校の不登校児童 17 名、ボランティア埼玉大学生 21 名、教職員 8 名が参加しました。

室内講義と、オオタカなど 16 種を観察した探鳥会を、後藤康夫、北村隆、石松康幸の 3 名が指導しました。

●事務局の予定

10 月 2 日(土) 編集会議、研究部会議、普及部会議。

10 月 9 日(土) 11 月号校正(午後 4 時から)。

10 月 16 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

10 月 17 日(日) 役員会。

●会員数は

9 月 1 日現在 2,428 人です。

活動報告

8 月 14 日(土) 9 月号校正(海老原美夫、喜多峻次、佐久間博文、志村佐治、山田義郎)。

8 月 15 日(日) 役員会(司会: 藤掛保司、各部の報告・同封発送の本部提案・鳥獣保護区に関する意見・その他)。

8 月 23 日(月) 9 月号を発送(倉林宗太郎)。

8 月 27 日(金) 本部常務会などに出席(海老原美夫)。

編集後記

7 月から 8 月にかけては、木陰での昼寝と読書、室内でのパソコンいじりなどでばおっと過ごした。8 月 22 日(日)、アシナガシギの茨城へ。8 月 24 日(火)遅い夏休みで、ドバトを食べているオオタカに出会い、26 日(木)ギンヤンマの産卵に目を見張った。少しずつ行動再開の感じ。(海)

しらこぼと 2004 年 10 月号(第 246 号) 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社